

第6回 <<家族を歌う>>河野裕子短歌賞

池田理代子選

神様も機嫌良さげね水無月は母胎の闇の柔かさ満つ

京都府木津川市 初霜 若葉

冥王星みたいな距離で見守るよほら君の名には太陽がある

徳島県阿南市 森岡 政子

被爆死の一朗君の母上はわれに遭う度孫子の年齢としきく

広島市中区 出口 政春

あまやかなる赤子抱けばほの温しつむりの方より重さ増しゆく

東京都練馬区 島本 千代子

米寿なる母は語れり生きいきと 吾あを産みし日のクチナシの白

千葉県市原市 安藤 純代

ほらほらねタンポポみんな宇宙人お空へ行くよ曾孫のつぶやき

福井県越前市 永田 きみ子

何もかも失ひ還歴となるわれに老いたる母がひとり残れり

青森県八戸市 木立 徹

海からの帰りは軽かるしふたりして白鳥座までふはり飛べさう

宮崎県延岡市 河野 正

細々となりし漁も養殖も若者をらぬ海苔場をうごく

大分県中津市 南 静子

稜線の明るきは月昇るらし声なく月待つ孫と並びて

大阪府八尾市 中前 政江

親ゆえの心配いっぱい眠れずに息苦しくて我が身あやうし

大阪府枚方市 田中 伸子

誰か去りしごとき風なり友が来しごとき風なり秋空見ておれば

岐阜県大垣市 子安 孝典

音もなく身体すり抜けゆく刻を掬ひ愛しむ老ひ母のあり

兵庫県宝塚市 山本 洋子

峠道モーセのごとく風割りて熱きを背負ひ急ぐ小児科

神奈川県横須賀市 渡辺 昭宏

ゆすらうめ円かな赤き実透き徹り幼なき姉がわれを呼ぶ声

東京都目黒区 進藤 多紀

戦友の死しておのれが残れるを負ひ目のごとく父は生きたり

大分県大分市 津野 律餘

幼二人玄関前に頭下げゴミ収集車見送る五月

島根県松江市 木下 みゆき

その昔 桔梗と言う名の タバコあり 祖父のキセルの たたく音あり

北海道紋別郡遠軽町 小森山 憲次

ボール蹴る幼等の声も包みこみ夕日ゆるゆる沈みてゆくよ

兵庫県三田市 加藤 容子

病より貧しさの方が耐へ得ると母の最期の言葉かみしむ

長崎県西彼杵郡 林田 千恵子

親を待つ 燕しずかに 首を出す 高野の駅を そつと 立ち去る

東京都大田区 片桐 久子

スキーコース迷へる我が遅るるを地蔵のやうに二人子待てり

新潟県長岡市 柳村 知子

懐しき汝なれとの生活思たつきひ出す病めば互かたみに粥かたなど炊きて

埼玉県久喜市 植田 眞純

折り鶴の折りめほっこりほぐしゆくおぼろな記憶君に行きつく

山梨県南巨摩郡 加賀美 公

八歳の調理しくれし唐辛子食めばのみどをみずみずと過ぐ

京都府舞鶴市 新谷 洋子

バイパスの手摺に見遣る合歓の花ちちははいもうと疾はしくにゐない

福岡県大牟田市 西山 博幸

迎へ火に上手に火が点く九回目あなたの足音角まがりたり

兵庫県尼崎市 大田 眞澄

飯食まんまべし雛の御膳を掌てのひらにをけば「幸せかい」と母の声きく

福井県鯖江市 中橋 睦美

踏切で見送る電車二両目に君が乗ってる本を読んでる

岡山県瀬戸内市 小橋 辰矢

待つ時間は待つ時間としてあるたとえば今 この子が靴を履き終えるまで

兵庫県尼崎市 谷岡 美樹

残世にこころ残りの三つほど秋夕焼けのひろごりの中

山梨県南アルプス市 川口 久

逢あえばまた君が手を振る僕ぼくも振るそれだけなのにそれだけなのに

東京都小平市 吉原 菊則

お互いの「取説」なるもの持たぬまま三十五年の過ぎてしまえり

東京都中野区 武藤 昭彦

行商をせし若き日の母の指に繋がる指の魚の指におい

愛知県安城市 岡本 はな

声変わりいつかするだろう無駄口をたたかぬ狡さも嘘も覚えて

タイ国バンコク 森上 美恵子

どっちでも似合っているからどっちでも似合う理由を言えねばならぬ

京都府京都市南区 中西 寒天

胎動にふと手を休め聴き入れば小さき命の笑う声する

兵庫県神戸市西区 遠藤 和子

おかあさんうちとおなじくらいすきと幾度聞けども幾度聞けども

東京都品川区 高橋 よしえ

いつとせを籠り過ぎし子の結ぶでこぼこネクタイ春の始まり

米国ハワイ州 シンタニ 優子

第6回 く家族を歌うく河野裕子短歌賞

俵 万智選

目と耳に母が残している記憶機銃掃射が一番こわいよ

神奈川県横浜市鶴見区 杉山 太郎

電子辞書に母さんの声があったなら布団の中で聞いてみたいよ

北海道札幌市南区 後藤 明美

少しでも握り返してほしいから時おり強く母の手握る

沖縄県国頭郡今帰仁村 大城 和子

その友を真似て元ちやんと夫呼べば十歳の差がふいに縮まる

鳥取県境港市 佐々木 千代子

「しんどい」は仕事だらうか珈琲をいれる子の顔見つめる朝

岡山県和气郡 高原 晴子

形見なる父の背広のポケットのどのポケットにも手を入れてみる

茨城県水戸市 小栗 純江

機関車がすきで恐竜すきだった息子に今は好きな人がある

香川県仲多度郡 藪内 眞由美

朝なさな妻たてし音よみがへる四月の明るき厨に入れり

神奈川県泰野市 福島 健太郎

ただいまと帰宅した子は家族っていいなあと言いつ炬燵にもぐる

埼玉県越谷市 神田 絢子

他人事のように聞きおり妹の話す優しき母の思い出

兵庫県高砂市 原 さとみ

「こんな時どうしてゐたの、かあさん」と古希すぎてなほ亡き母にきく

秋田県秋田市 加藤 トシ子

たばこ屋のポストが今もあつたなら母は手紙を書いただろうか  
山口県山口市 鳥野 あさぎ

できるだけ早く来いよと言うだろう「ありがとう」だと思つてほしい  
福井県越前市 中山 大三

好きな絵のページばかりを繰るような母のはなしを子の顔で聞く  
京都府木津川市 清水 恭子

大きなもの音すれば転倒かと夫も二階の吾を案ずと  
沖縄県中頭郡 新城 初枝

あなうら  
足裏をあはせて笑ふ子と向かひ午後の炬燵にえびせんを食む  
茨城県鹿嶋市 塙 直美

一時間あるいて登校する吾子が玄関に黄の雨傘ひらく  
茨城県鹿嶋市 塙 直美

寡黙なる父詠みし歌結句のみ忘れずにある「子等と柿もぐ」  
東京都狛江市 奈良 雄次

今日の運勢この世にあらぬ夫の分もこころをこめて見てる朝あさ  
福岡県北九州市 岩坪 英子

諍いのままに出掛けし孫からのメールに猫の三匹正座す  
京都府亀岡市 小野 陽子

乗り換へて目黒の歯科に行かせたる六歳の息子を隠れて待ちき  
埼玉県和光市 中門 和子

ひとり居の家に息子のあらはれて体のゆるむやうなるやすらぎ  
群馬県高崎市 岸 惠美子

義妹と「男はみんなそんなものよ」などと言ひ合う仲になりたり  
新潟県新潟市 矢田 祥子

跳ね回るネズミ花火のやうな孫ら汗にまみれてボール蹴りをり

高知県土佐市 土居 健一

初期化してあなたを育て直したし家族写真に少し微笑む

鹿児島県鹿児島市 伊地知 典子

もはやもう減りゆくばかりきみと吾の今日一日を昨日が支ふ

群馬県みどり市 芝崎 好子

病室に夫を残して帰り来ぬ家ひろびろとたったのひとり

香川県善通寺市 真部 満智子

三度目にやっと聞こえる人と食む枇杷の実あましと互に言いて

広島県尾道市 吉原 浩子

保育園の鞆まだありポケットにむかしむかしの団栗入れて

熊本県上益城郡 西梅 孝子

乱雑に脱ぎ捨てられた幼子の靴を揃える手間を喜ぶ

愛知県額田郡 吉口 三男

焼きたてのパンの香りで目覚めればこういう朝があつたかと思う

和歌山県有田郡 北山 順子

「らっきょう」と母の字うすれる空瓶は初夏の匂いを蓋に残せり

京都府京都市山科区 脇野 由香

亡き父母の婚礼写真じつと見る何処にありしやその時吾は

和歌山県和歌山市 松田 容典

泣き止まぬみどり児抱けば薄目開けわれを認めて眠りに入りぬ

大阪府堺市北区 小川 丞

君が見る五十年後の大空もかく青かれと乳母車押す

米国ハワイ州 鶴川 登旨

第6

回河野裕子短歌賞 《家族の歌・愛の歌》入選作品

子はキャン  
夫は仕事つまの夏の夜に  
我ひっそりと四十しじゅうになりぬ

京都府京都市右京区  
西村 紀美



第6回 く家族を歌うく河野裕子短歌賞

永田 和宏選

電子辞書に母さんの声があったなら布団の中で聞いてみたいよ

北海道札幌市南区 後藤 明美

海からの帰りは軽<sup>かる</sup>しふたりして白鳥座までふはり飛べさう

宮崎県延岡市 河野 正

不器用な人だと思ふ夫は子の雪だるまに傘差し掛けて出づ

兵庫県西脇市 大江 美典

今宵またおなじ場面でねむる子の夢に這つてるはらぺこあをむし

福岡県筑後市 井寺 容子

機関車がすきで恐竜すきだった息子に今は好きな人がゐる

香川県仲多度郡 藪内 眞由美

焦げたパン「これぐらいのが好きやねん」そういう君の優しさが好き

大阪府大阪市鶴見区 田中 里江

母さんに大好きな人いることを息子知るまじ知らなくていい

島根県出雲市 太田 ミチ子

広辞苑に四つ葉のクローバーはさむ癖 見つけくるるはいつも君なり

北海道夕張郡 水越 和恵

とうたん<sup>と</sup>とあたん<sup>と</sup>吾子の初ことば<sup>と</sup>父<sup>と</sup>たんはあなた<sup>たあ</sup>母<sup>たあ</sup>たんはわたし

大阪府大阪市旭区 辻口 加代子

蟬声のまだやはらかき早朝に重き靴を抱へゆく夫

大阪府堺市東区 佐藤 遵子

畑から冬瓜を抱いてくるときにこつそり母は笑っていたか

岐阜県大垣市 子安 敦子

生まれ来て三日だけ生きた姉がおり名前の一字吾が引き継ぐ

兵庫県三田市 松下 英秋

ほたるにも星にもならずいてほしいあなたの椅子に深く座りぬ

京都府舞鶴市 鮭本 ミツ子

床に臥す我を気遣ひ又覗く老後はやはり夫と二人か

兵庫県佐用郡 岡田 仍子

『がんばって』とベットの夫に手を振れば「おう」と答えて手術室に入る

山梨県山梨市 田村 由利子

もの忘れ増えくる夫がニコニコと「おまえのことは覚えておくよ」

沖縄県宮古島市 狩俣 淳子

八十を過ぎても人を抱くことのたまにはありてわれに妻あり

山形県山形市 黒沼 智

死に近き実母<sup>はは</sup>の見舞に喪の服を旅のカバンに添える重たさ

大阪府堺市東区 中川 孝子

抜き足のサンタの履いてる靴下は父と同じと幼な子気づく

兵庫県洲本市 内藤 晶子

水こぼし拭くより先にママの顔見たり五さいも三さいの子も

福島県福島市 松川 韶子

パソコンをチェックし終ゑて昼寝して「また来る」と息子の「母の日」終わる

大阪府豊能郡 熊ノ郷 紀子

「はなちゃん」と子の名付くるはどれなりや水槽の藻にめだか七匹

山形県上山市 鎌上 純子

助手席に眠りこけてる私を責めもあきれもせぬ君が好き

富山県黒部市 山口 桂子

癌告知受けたる妻がぼつとりと「お昼が遅くなるけどゴメンネ」

大阪府泉佐野市 米谷 茂

保証の欄妻のサインはぎこちなくずれる捺印われ入院す

千葉県野田市 片倉 伸明

手をつなぎ母の一步は三センチ父の遺影の前を三周

和歌山県和歌山市 立川 唱寛

妻と子が俺の家族と息子が言う我の作りしピカタ食べつつ

岡山県倉敷市 ぱいんぐりん

ふわふわに 布団を干して おきました 昨日の喧嘩 私が悪い

愛媛県松山市 宇都宮 千瑞子

声変わりいつかするだろう無駄口をたたかぬ狡さも嘘も覚えて

タイ国バンコク 森上 美恵子

親だって褒めて伸びるとつぶやけば動じぬ吾子がふつと笑えり

群馬県藤岡市 神田 恵美子

出発の日に息子のかけたサングラス理由も知らずに笑ってごめん

兵庫県高砂市 原 恵理

夕立のあがる補講の教室で君のノートにY軸を描く

大阪府大阪市北区 中井 スピカ

君に書いたラブレターまだ出せないで持っていると言われてもなあ

京都府京都市右京区 高橋 よしこ

あの日から何年目、って指を折るあの日が増える君と暮らして

兵庫県加古川市 多田 まどか

階下からママに内緒と聞こえれば夏雲眺めてTシャツを干す

埼玉県さいたま市見沼区 原 真由美